

銀賞

人権と報道

横須賀市立久里浜中学校三年

栗林杏樹

人権作文でこのテーマを選んだきっかけは、最近、自分に近い年齢の人が、加害者や被害者になっている事件をよく耳にするからです。

夏休みの初め、衝撃的なニュースがとびこんできました。佐世保で起きた殺人事件です。私が一番気になったことは、加害者の家族関係などがおおげさに報道されていたことです。ワイドショーでは、加害者の生活環境、家庭の事情、家族構成、両親の職業、人物像などが大きく取り上げられていました。たとえ罪を犯した人であったとしても、その人の家族であったとしても、このようなことが全国、世界に発信され、その後の生活をどのように過ごしていくのかと想像すると、とても悲しい気持ちになりました。

知りたいことがたくさんある。名前、顔、とりまく環境、おいたち……。情報を与える側も知りたい欲求に応えるために、どこの放送局よりも、よりたくさんさんの情報を公開したい。スクープが欲しい。

しかし、小学校時代の作文や家族写真が載っている年賀状を公開することは、本当に必要なことなのだろうか。みんな、人のことをネタにして楽しんではいないだろうか。

マスコミの人たちは何か事件があればすぐに駆けつけて、テレビや新聞で報道します。マスメディアが犯罪などの事件を報道するとき、誤報や事実と確認されていないことを決めつけて報道したり、事実を故意に編集し誇張した報道によって、報道された側の生活基盤、人間関係などを崩壊させてしまうこともあると思います。

もう一つ、加害者より被害者について大きく取り上げている報道がありました。私が心に残っているのは、インターネットで配信されている保育サービスを利用し、預けられた子どもが被害にあった痛ましい事件です。

加害者はインターネットで、保育士として働いていたことや二十四時間年中無休で活動しているといった内容を紹介していました。被害にあった女性はシングルマザーで、このサイトを通して加害者とメールやインターネットで数回連絡を取っただけで、三日間の保育を依頼してしまいました。

この事件では、見ず知らずの人に子どもを預けたのが悪いという

母親への非難が高まりました。被害者なのに。

マスコミの人は、この母親へのインタビューでこう言いました。

「あなたはこの事件について、どのように思いますか？」

すると、テレビカメラの前で子どもを失った母親が、世間に対して謝罪の言葉を述べました。

保育サービスをとり巻く環境や、そうまでして子どもを預けなければならぬ母親の事情などは、この事件とは直接的な関係はないと思います。この事件で一番悲しい思いをしているのはお母さんです。人に言われなくても、一番後悔しているのもお母さんです。それなのに、まるで正義かのように、よってたかって追いつめているように思えます。私は怒りを感じました。横暴な取材陣にも、見えないところで悪口を言っている人たちにも。

私たちは今、テレビやインターネットで色々な情報を知ることができます。それはとても便利で、情報を公開したことによって犯罪を未然に防いだり、助かったケースもたくさんあります。しかし、その便利な情報化社会では、この2つの事件のように、人権が無視されてしまっている場面も多いのです。誰かがつぶやいた心ない一言に、全く面識のない、顔の見えない別の誰かがコメントをし、事

実とは関係ない報道がふくらんでいく。自分の意見ではなく、多数の意見が正しいという考えが広まり、便利さゆえに人を傷つけ人権を侵害してしまう。

被害者にも加害者にも人権があり、どこで線を引くかは難しいけれど、人の気持ちを無視した言葉には思いやりがありません。

私はマスコミによって苦しい思いをする人がいなくなればよいと思います。事件に対しても人に対しても、興味本位ではなく、このようなことが再び起こらないようにするためにはどうすればよいのか、痛みに寄り添った報道をしてほしいと思います。

私たちがすべきことは、視聴者である一人一人がその報道を見極め、節度をもって判断していくことだと思います。私は偏見をもたず、広い視野で、人の痛みが分かる大人になりたいです。